

各支援センターの主な取り組み状況等

◆主な取り組み

三田市地域包括（基幹型）支援センター、フラワー地域包括支援センター、ウッドィ地域包括支援センター、藍地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を兼務により配置して、認知症に関する相談支援や啓発の取り組みを充実させている。その他、地域における高齢者の見守り等ネットワークの構築や自主的な介護予防活動の支援等に取り組んだ。

センター名	主な取り組み（上段）／課題や今後の取り組み（下段）
（基幹型） 三田市 地域包括 支援センター	<p>●認知症サポーターキャラバン キャラバン・メイトの養成 ・キャラバン・メイトと「家族向け認知症サポーター養成講座」を企画、運営を行った。また、キャラバン・メイトを中心としたサークル「オレンジパンダ」の立ち上げ及び活動の後方支援を行い、市、キャラバン・メイト、認知症サポーターと協働により、「認知症啓発ポスター展示」と「認知症に優しい図書館」等の啓発を実施した。</p> <p>●後方支援・機能強化 ・各圏域から相談を受けたケースについては圏域担当の支援センターと共に訪問や、カンファレンス実施など積極的に介入し後方支援を行っている。</p> <p>○市と連携して、チームオレンジ活動開始に向けた目標・認知症地域支援推進員との分担などについての協議を実施していく。 ○認知症サポーター、キャラバン・メイトを中心に、認知症の人もそうでない人も、誰もが気軽に参加し、多世代で交流ができるつどいの場づくりを企画・運営するサークル「オレンジパンダ」活動の後方支援を継続実施。 ○支援センター職員向け研修を実施する。全包括化のタイミングでもあることから、包括職員としての基礎となる研修を全職員対象に実施する。</p>
（地域型） 三田市 地域包括 支援センター	<p>●地域介護予防活動の支援 ・いきいき百歳体操グループに10回訪問。（体力測定1回、講話5回実施）世話役の人から参加者（独居となった人など）の相談を受けた。 ・新規グループとして高齢者向け住宅にて入居者対象のいきいき百歳体操グループが立ち上がった。</p> <p>●認知症の人及びその家族への支援 ・認知症の方の外出支援を生活支援CO兼地域福祉支援員、特養施設と連携して検討している。</p> <p>○地域で介護予防活動を主体的に取り組む人材の育成が十分ではない。12/15にいきいき百歳体操サポーター養成講座を行う予定。また、いきいき百歳体操出張体験会のチラシを高齢化率の高い地域に当センターの啓発をかねて配布予定。 ○認知症の当事者や家族が気軽集える場づくりのため、地域住民、事業所等への周知啓発や生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員と連携を進める。</p>
フラワー 地域包括 支援センター	<p>●地域のネットワーク構築 ・民生委員・ケアマネジャーとの意見交換会を開催（6月弥生が丘、7月富士が丘、8月狭間が丘、9月武庫が丘）。民生委員・ケアマネジャーともに多数の参加あり、活発な意見交換ができた。</p> <p>●認知症に関する知識や理解の普及・啓発 ・認知症啓発イベント「集まろう！オレンジリングproject」は、受講の容易性確保を目的に隔月・全日程日曜・複数箇所で開催（多世代交流館ふらっと・コープ三田西・市民センター）。日程・場所を工夫することで参加アクセスが向上し、幅広い世代の受講につながった。当事者の発信力により講座をきっかけに「花✿花カフェ」（認知症カフェ）に参加した当事者・家族もあった。 ・「花✿花カフェ」（認知症カフェ）を8・9月は臨時的に駅ビル内のe薬局フロアで開催したところ、利便性がよいことに加え、薬局の運動指導員に参加者家族が相談する場面も見られた。</p> <p>○校区ごとに開催した意見交換会（ケアマネジャーと民生委員）は好評であったため、今後も地域と専門職との交流の機会を検討する。 ○認知症啓発イベント「集まろう！オレンジリングproject」はチラシにQRコードを掲載しインターネット申込みができるようにしたことで、若い世代の申し込みが増加。開催内容・広報の工夫を今後も重ねて、認知症に関心がある住民が受講につながりやすいルートを確保していく。</p>

<p>ウッディ 地域包括 支援センター</p>	<p>●実態把握 R3年度の要援護高齢者調査対象者に対して、R4年4月以降も継続して状況把握、関係性構築のため訪問等を実施。7月から市民センターで実施した「いきいき百歳体操体験会」の周知をかねて近隣住民を中心に訪問、実態把握や個別支援につないだ。</p> <p>●認知症に関する知識や理解の普及・啓発 生活支援CO兼地域福祉支援員と連携しながら、認知症サポーター養成講座・声かけ訓練等の取り組みへの働きかけを民生委員、商業施設、学校等に行なった。今後も、継続して働きかけを行う。</p> <hr/> <p>○支援が必要な高齢者の生活実態の把握や相談につながるまでの期間が短くなるように、要援護高齢者調査後のフォローアップ訪問を継続して行っていく。 ○認知症サポーター養成講座実施にあたり、身近な地域のキャラバンメイトの参加を依頼し、地域との繋がりを進める。また、生活支援CO兼地域福祉支援員と協働し、地域、商業施設、学校等に向けて認知症の啓発を実施する。</p>
<p>藍 地域包括 支援センター</p>	<p>●地域ネットワークの構築 生活支援CO兼地域支援推進員と共に地域の主要な箇所(医院や薬局、スーパー、郵便局など計21か所)を訪問し、市民センターでの出張相談のチラシ掲示依頼を行った。貸館利用者から声をかけてもらえるようになっており、地域住民とのつながりや情報収集ができる貴重な場となっている。</p> <p>●認知症カフェの実施や支援等 ・認知症介護者の集い(3回シリーズ)を企画。第1回目は8月5日にグループホーム薬師のさとの職員にも参加してもらい座談会を実施。8名の参加あり。参加者からはグループホームのことが分かった、実際に介護をされている方の話が聞けて良かったなどの感想を聞くことができた。引き続き、認知症介護者の集いを実施することで認知症介護者同士のつながりができ社会的孤立を防ぐ機会となっている。</p> <hr/> <p>○地域の活動者、生活支援CO兼地域福祉支援員との座談会を開催し、活動者同士の情報交換やネットワークの構築を図る。 ○市民センターでの出張相談会を継続し、個別の相談以外に貸館利用者や地域住民とつながりを持ち地域の相談窓口としての周知を図ると共に地域の情報収集を図っていく。 ○認知症介護者同士の情報共有、交流の場の提供として認知症介護者の集いを実施するとともに、今後も増加が見込まれる認知症に関する理解を深めるため認知症予防教室を企画する。</p>
<p>三輪北・ 小野・高平 高齢者 支援センター</p>	<p>●総合相談支援・地域のネットワーク構築 ・さとカフェ(高平)ではいきいき百歳体操、志手原つながり広場ではミニデイなど、地域住民にとっての居場所づくりの一助となれるように協力している。コロナ禍で閉じこもりがちな利用者に対してのアプローチの一つとしても検討・提案していく。</p> <hr/> <p>○さとカフェ(高平)へは月1回、志手原つながり広場へは月2回出張相談実施。地域の通信等で出張相談の案内はされているものの相談人数は横ばいの状態であるが、まち協の取り組みの情報や、地域の要支援高齢者の状況を知ること、相談につながっていることから、継続して取り組んでいく。</p>
<p>広野・本庄 高齢者 支援センター</p>	<p>●総合相談支援・地域のネットワーク構築 ・個別地域ケア会議の開催は、対象者入院に伴い中止となったが、前年度までに実施した個別地域ケア会議からネットワーク構築、地域課題発見、資源開発に繋がっている。</p> <hr/> <p>○ボランティア利用希望の相談が増えているが活動者のキャパシティオーバーのため支援困難になっているように思われ、活動者の担い手づくりが必要である。</p>